海辺のランドスケープ特集にあたって

Special Edition of Seaside Landscape

徳江　義宏*
Yoshihiro TOKUE

四方を海に囲まれた日本は，古来から海の豊かな生態系より多くのめぐみを得てきた。とりわけ陸と海の接点である海辺には，砂浜，磯浜，干潟，藻場など多様な環境が成立することで，漁業や養殖業などの多様な生業が営まれてきた。また，天橋立のように古代から和歌に詠まれてきたような景観資源も海辺には多く立地しており，レクリエーションや文化的な観点からも海辺は貴重な空間である。しかし，高度経済成長期以降，大都市圏を中心として，海辺は埋め立てや護岸整備が進み，豊かな生態系とそこで営まれてきた生業も失われてきた結果，このような海辺の再生は今日の大きな課題となっている。また，東日本大震災の津波によって東北地方の海辺が甚大な被害を受けたことを契機に，災害リスクを考慮した海辺の土地利用の見直しも進められている。さらに今後，気候変動による海面上昇への適応策も海辺には求められるであろう。

ランドスケープ分野では，汐入の庭園や国内の国立公園の指定は瀬戸内海が最初であったことなどからも，古くから風景的な観点から海辺の空間を扱う技術は多く蓄積されてきた。しかし，生物多様性を扱う生態工学の技術については，海域を中心とする海岸土木などの土木分野に比べると，研究や取組の事例は限定されたものとなっている。改めてランドスケープ分野が蓄積してきた知見や技術，取り組みの結果を整理することは，意義があるとともに海域の土木分野との効果的な連携にもつながるであろう。そこで本特集では海辺を対象として下記に示す 3 部構成で，今後のランドスケープ分野における海辺に対する取り組みの方向性や課題を論じることとした。

第 1 部では，海辺の自然環境の基盤となる生物多様性および海辺のもつ価値に着目した議論を行った。海辺の生物多様性について，生態学的な観点からその特性を議論した。海辺の土地利用について，東北地方の気仙沼市における事例をもとに，生物多様性保全と防災的な観点からの課題や方向性について議論し海辺のレクレーション利用について，北海道の石狩海岸を事例に砂浜海岸の保全のあり方について議論した。海辺の文化について，全国の海辺の名勝の状況を整理し，海辺の文化的な価値について議論した。

第 2 部では海辺の生態工学的技術に関連する研究や計画設計の事例について整理を行った。過去の日本造園学会，関連する他学会誌における海辺の生態工学的な研究事例および計画設計事例について整理した。計画設計の代表的例としてひたち海浜公園における植生の計画事例を取り上げた。海外の事例として，イギリスの塩沼地を対象に生態系保全とあわせた地球温暖化に対する適応策の取り組み事例を紹介した。

第 3 部では，東京湾の海辺について議論を行った。ランドスケープ分野において優れた海辺の計画事例とされる東京湾の海上公園を中心として，鳥類，ウナギ，ハゼ，底生生物，植物等の各種の生物について，調査研究や保全活動等に取り組んでいる方々による議論を展開した。海上公園の計画に携わった元・東京都職員の樋渡達也氏にインタビューを行い，過去の計画から東京湾の将来について語っていただいた。

最後のまとめとして，海辺のランドスケープにおける研究や計画における課題や方向性について議論を展開した。本特集を通してランドスケープ分野における海辺の研究や技術の特徴を再確認し，今後の研究や計画設計の深化に寄与すれば幸いである。

なお，本特集記事は，生態工学研究推進委員会において，企画および編集を行い，とりまとめたものである。

読者アンケートのお願い

編集委員会では，今後の誌面づくりの参考とするため，特集内容に関する学会員の皆さまからのご意見を募集しております。件名に特集タイトルをご記入の上，①氏名，②所属，③連絡先（e-mail など），④特集に関するご意見等（400 字程度）を下記のアドレスまでご投稿ください。なお，ご記入頂きました個人情報につきましては適正に管理し，ご意見の内容に関する連絡等に利用させて頂く場合がございます。ご意見に対する個別の回答は致しませんのでご了承ください。

［読者アンケート送信先アドレス：hensyu@jila-zouen.org］

* 日本工営㈱